経済産業省

資料３－１

# 双方向コミュニケーションのこれまでの取組と今後の取組の方向性について

平成３０年４月２７日

廃炉・汚染水対策チーム事務局

# 地域・社会との既存コミュニケーションについて

**対行政**

●廃炉・汚染水対策福島評議会
廃炉・汚染水対策の進捗や情報発信の在り方等について、地元自治体の首長や団体の長等に対する説明・意見交換。

●廃炉安全監視協議会
県が主催し、専門委員や地元自治体の事務方等に対し、原子力発電所の廃止措置等に向けた取組について、安全確保に関する事項を確認し、情報共有を実施。

●１３市町村に対する廃炉の進捗説明
毎月、現地事務所の職員が、役場（首長・事務方等）に対する１F近況説明を実施。

**対住民**

●廃炉国際フォーラム（NDF主催）
２年前から浜通りで開催。昨年は、初日に地域とのコミュニケーションをテーマに、住民の方々の疑問　や不安を直接的にお伺いする形で開催。【開催頻度：年１回、規模：延べ来場者数1,200名程度（昨年実績）】

●廃炉安全確保県民会議
県が主催。廃炉等の取組を確認し、県民目線での意見等をいただくための会議。13市町村や各種団体等で開催。
【開催頻度：２ヶ月に１回程度（視察含む）】

●住民説明会等
南相馬市や浪江町では、市町村が主催し、廃炉に関する住民等への説明会を実施。

**対メディア**

●定例ブリーフィング（月１回）
廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議終了後に、東京・福島のそれぞれで、プレスブリーフィングを実施

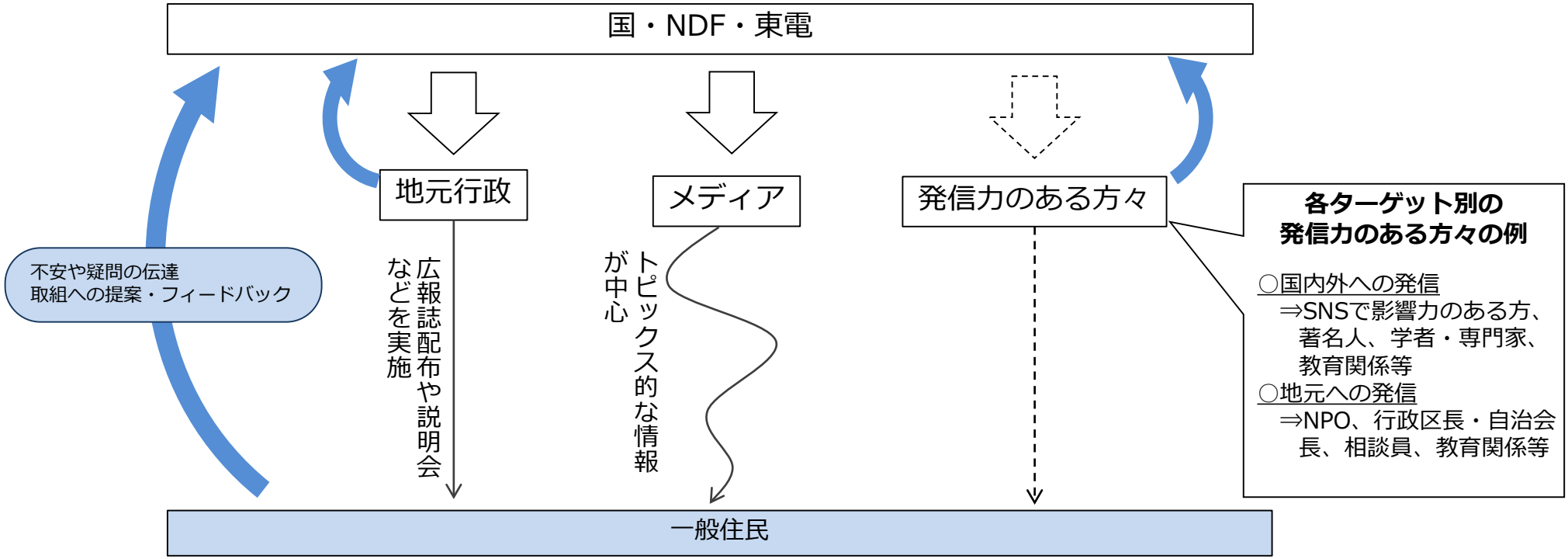
●各種ブリーフィング
各種の政府会議（現地調整会議や汚染水処理対策委員会等）の後には積極的にプレスブリーフィングを実施。

●海外メディアに対する情報発信
年に一度、フォーリンプレスセンターで、中国や韓国などアジアをはじめとした各国の記者約３０名と駐日大使館員を対象に、廃炉・汚染水対策の最新の状況や今後の見通しを説明。

●１F勉強会・現場公開
年に２０回程度、メディアを対象とした１F勉強会や現場公開を実施。

# 双方向のコミュニケーションについて

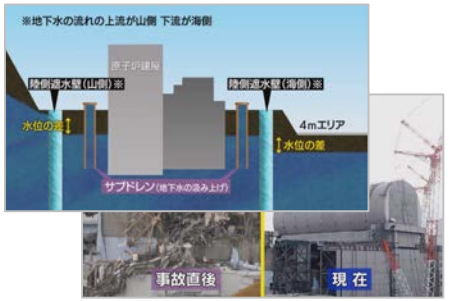
- 避難指示の解除が進み、復興に向けた動きが進展している。そうした状況の中、長期に及ぶ廃炉作業を実施する上では、地域・社会の不安や疑問に応えながら、廃炉に関する取組の理解を得ることが不可欠。
- このため、住民の方々を含めた様々な立場の方々との双方向のコミュニケーションの充実を図ることが重要。昨年９月に改訂した中長期ロードマップでもそうした方針を明記。
- 一方で、一般の住民の方々全てに国からアプローチすることは難しいため、発信力がある方々に廃炉の現状を理解いただき、発信いただくことも重要。



# 中長期ロードマップ改訂後の具体的な取組

## ●広報コンテンツ（パンフレット・動画）の制作

- 福島第一原子力発電所で行われている廃炉・汚染水対策の進捗状況について紹介するためのパンフレット「廃炉の大切な話」や動画「廃炉のいま」を制作。
- 特にパンフレットについては、県内全市町村・全都道府県へ配布を行うために、15万部を発行。制作段階から、地元自治体や一部の地元住民の方々へ事前に御意見を伺い、可能な限りいただいた御意見・御指摘を反映。




動画「廃炉のいま」

パンフレット「廃炉の大切な話」

## ●ＷＥＢページ（廃炉・汚染水対策ポータルサイト）の改善

- 資源エネルギー庁が管理する「廃炉・汚染水ポータルサイト」の構成等を改訂。「知りたい情報にアクセスしやすくすること」を追及。
  - ・多くのリンクが平坦に並べられており、多くの情報を見つけづらい。
    **⇒トップページに「メニュー」を設置し、欲しい情報へのアクセス性を向上**
  - ・各種の会議資料が別のページに存在しており、ポータルサイトとの連動制が欠けている。
    **⇒ポータルサイト内に会議の関係図を掲載し、そこから会議体にアクセス可能に**

before

After

## ●座談会

- 地元の方々とともに、今後どのように具体的に双方向のコミュニケーションを行っていくべきかについて、一緒に考えさせていただくことを目的とした座談会を開催。
- ＮＰＯの関係者や、教育関係者、地元企業の代表の方々など、地元住民側からは１８名が参加した。
- 「対話」は目的ではなく、ツールであるということを大前提に、一つでも多くのアクションにつなげられるよう、議論が進められた。
- 具体的には、「リレー授業の開催」（教育関係者）、「自分達の団体での説明会の開催」（団体関係者）等の提案があった。今後、実際の動きに繋げていきたい。

座談会の様子
平成30年3月18日（日）
14：00～16：00
@いわき市生涯学習センター

## ●相談員の方々との意見交換・１F視察の実行

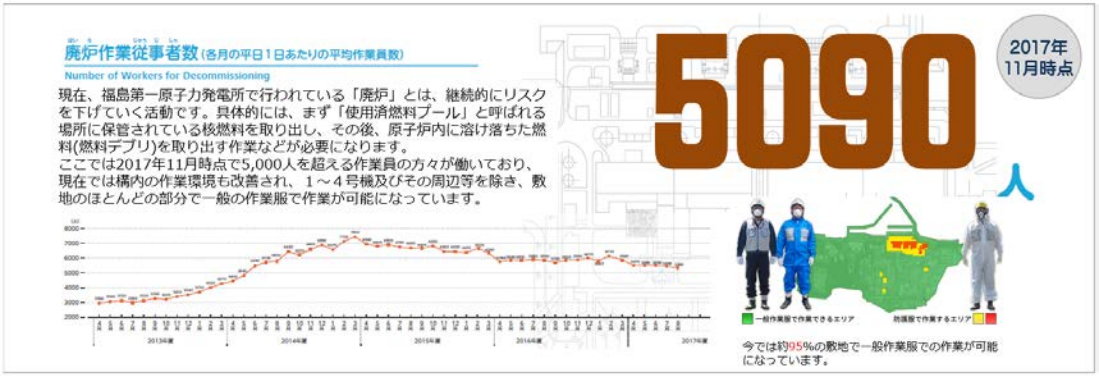
- 地域住民の方々と直接接する機会が多い相談員等（生活支援相談員／放射線相談員）の方々と、福島第一原子力発電所の現状や住民から寄せられる廃炉への不安等について意見交換会を実施。
- ３月には、２度、相談員の方々等を対象とした福島第一原子力発電所の視察を実行。

意見交換会の様子
平成30年1月30日（火）
13：30～15：30
@富岡学びの森

福島第一原発視察の様子
平成30年3月1日（木）

## ●福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の展示物改善への協力

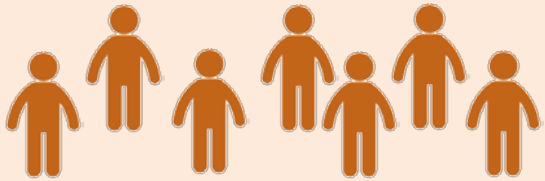
- コミュタン福島は、県内の小学生をはじめ多くの方々が訪れる、放射線や福島の現状についての学習施設。
- 廃炉に関してもコーナーが一つあり、展示物について、内容を変更（労働環境の改善を盛り込む）するとともに、国の動画を一部加工し、当該コーナーで放映させていただく予定。




## ●他省庁媒体の有効活用

- 政府の「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」にも記載されているが、廃炉の情報については、発信媒体の性質などを踏まえ、必要に応じて、関係府省庁の媒体等にも掲載していくことも重要。具体的には、以下のような媒体で廃炉の進捗情報について記載・改善する方向で調整中。
  - ●文科省　放射線副読本（小・中高向け）
  - ●環境省　放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料
  - ●復興庁　風評被害の払拭に向けて

# 今後の取組について（国が目指したい姿）



**地域で積極的に活動している皆様**

- 地域の声の共有
- 疑問や不安の共有
- 「場」の設定や既存の場の活用
- 施策等に対する提案

**政府　ＮＤＦ　東京電力**

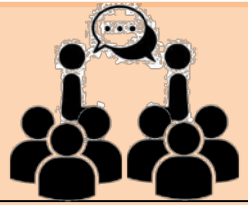
- 進捗状況の提供
- リアルタイムの情報提供
- 「場」の設定
- 提案された施策等の実現

**既存のオケージョンへの組み込み**

◆ 既存の集会や行事で「廃炉」をテーマとした情報提供等の場を構築

**直接的な対話**

実績あり ◆ **車　座**
（少人数の対話形式の意見交換会）



**シンポジウム等の開催**

実績あり ◆ **ハイロミライバー**
（民間主催の「廃炉」に特化した対話形式のイベント）

◆ **福島第一廃炉国際フォーラム**
（ＮＤＦ主催の住民・専門家を交えたイベント）

**広報コンテンツの波及**

実績あり ◆ パンフレットや動画コンテンツを不安や疑問に応える内容とするべく、事前に意見を聴取

**行事等での廃炉ブースの展開**

◆ 人が集まるイベントや祭りで、廃炉に関するブース等を展示し、情報を提供

**現地視察の企画**

実績あり ◆ 福島第一原子力発電所や周辺地域の復興状況の視察を実行